

平成 29 年度アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム
(Certificate Program for Professional of Educational and Learning Support
:ALPS 履修証明プログラム)
第 1 期生 募集要項

「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム(ALPS 履修証明プログラム)」は、千葉大学アカデミック・リンク・センターが、教育関係共同利用拠点として、大学等の高等教育機関における職員らの教育・学修支援の専門性を高めることを目的とする体系的なプログラムです。

平成 29 年度のプログラム受講生(第 1 期生)を下記の要領で募集します。

1. 目的

ALPS 履修証明プログラムは、千葉大学アカデミック・リンク・センターが、大学等の高等教育機関における職員らの教育・学修支援の専門性の向上を実現するために、必要となる能力内容を体系化・可視化することを目的に開発した研修プログラムです。本プログラムは、これまでの研修プログラムとは異なり、調査結果から抽出した「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」及び「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック」に基づき作成されています*1。教育・学修支援に必要な知識・技能を獲得するとともに、先進事例から実践的に学ぶことを通じて、大学等に関わる方々に必要となる教育・学修支援の専門性を高めます。

*1「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」及び「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック」の詳細は、千葉大学アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラムウェブサイト(<http://alc.chiba-u.jp/ALPS/index.html>)をご参照ください。

2. 申込資格

以下の(1)及び(2)を満たす者。

(1) 大学を卒業し、学士の学位を有する者またはこれと同等以上の学力を有すると本センターが認めた者*2。

(2) 以下のいずれかを満たす者。

① 大学その他高等教育機関において教育・学修支援に携わる者。

② 大学その他高等教育機関における教育・学修支援に関心があり、将来、大学その他高等教育機関において教育・学修支援に携わる希望がある者*2。

(※2 事前に本センターまでお問い合わせください。)

3. 募集定員

30 名(千葉大学からの参加者を含む)

▶ 申込書類をもとに選考の上、8 月 4 日(金)までに選考結果を連絡します。

4. 申込方法

(1) 申込書類

「平成 29 年度アカデミック・リンク教育・学修支援専門養成履修証明プログラム」受講申込書

▶ 申込書類は、千葉大学アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラムウェブサイトよりダウンロードすることができます。

(2) 申込期間

平成 29 年 7 月 3 日(月)～平成 29 年 7 月 20 日(木) (必着)

(3) 書類提出先

申込書類を同封の上、下記宛先に「ALPS 履修証明プログラム受講申込書在中」と朱書きし、簡易書留にて郵送願います。

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学アカデミック・リンク・センター 宛

5. 修了の要件

ALPS 履修証明プログラムとして設定された 15 コース(計 120 時間以上)すべてにおいて、コースそれぞれの修了要件を満たすこと。本プログラムの全コースを修了し、千葉大学アカデミック・リンク・センター教員会議で認定された場合、学校教育法 105 条の規定に基づき、「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム」履修証明書を授与します。

6. 受講料及びその他費用について

(1) 受講料 120,000 円

▶ 千葉大学履修証明プログラムに関する規程に基づいた履修期間(2 年間)全体への受講料です。1 年目・2 年目について、各 60,000 円を受講決定通知後、平成 29 年度分を平成 29 年 8 月 31 日(木)までに振り込み願います。なお、支払われた受講料は、返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

(2) その他

本プログラムで実施する対面授業・履修証明書授与式・成果報告会に参加する交通費・宿泊費等は自己負担となります。対面授業は、千葉大学西千葉キャンパスで実施することを予定しています。

7. 今後の日程について

| | |
|-------------------------------|---|
| (1) 申込書類締切 | 平成 29 年 7 月 20 日(木)必着 |
| (2) 選考結果通知 | 平成 29 年 8 月 4 日(金) |
| | (学習管理システムへのログインパスワード・ID の通知・振り込み案内の送付を含む) |
| (3) 平成 29 年度受講料の支払い(60,000 円) | 平成 29 年 8 月 31 日(木)まで |
| (4) 平成 29 年度夏期 e ラーニングの受講期間 | 平成 29 年 8 月上旬～夏期対面授業当日まで |
| (5) 平成 29 年度夏期対面授業期間 | 平成 29 年 9 月 11 日(月)～13 日(水) |

| | |
|------------------------------|---------------------------|
| (6)平成 29 年度春期 e ラーニングの受講期間 | 平成 30 年 2 月上旬～春期対面授業当日まで |
| (7)平成 29 年度春期対面授業期間 | 平成 30 年 3 月 5 日(月)・6 日(火) |
| (8)平成 30 年度受講料の支払い(60,000 円) | 平成 30 年 8 月下旬まで(予定) |
| (9)平成 30 年度夏期 e ラーニングの受講期間 | 平成 30 年 8～9 月初旬頃(予定) |
| (10)平成 30 年度夏期対面授業期間 | 平成 30 年 9 月初旬から中旬頃(予定) |
| (11)平成 30 年度春期 e ラーニングの受講期間 | 平成 31 年 2～3 月初旬頃(予定) |
| (12)平成 30 年度春期対面授業期間 | 平成 31 年 3 月初旬から中旬頃(予定) |
| (13)履修証明書授与式・成果報告会 | 平成 30 年度春期対面授業期間 |

8. 問い合わせ先

千葉大学アカデミック・リンク・センター 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

TEL:043-290-2891 Mail:alps-info@chiba-u.jp

9. 開講コースについて

(1)ALPS 履修証明プログラム 15 テーマ(15 テーマ×8 時間)

【基盤的テーマ】教育・学修支援の専門性を高めるために共通に修得する内容(11 テーマ)

- 1) 高等教育政策と自校理解
- 2) カリキュラム理解
- 3) 学生の抱える困難の理解と支援
- 4) コミュニケーションとカウンセリングの基礎
- 5) 高等教育の国際化対応
- 6) 教育 IR 入門:教育データの分析と活用
- 7) 教育の ICT 化と教材開発支援
- 8) 学修支援とアカデミック・アドバイジング
- 9) 教育方法・教育評価
- 10) 学生・学修に対する理解
- 11) ラーニングコモンズの運営

【総合的テーマ】教育・学修支援を実践するための手法を修得する内容(2 テーマ)

- 12) 教育・学修支援マネジメント(1)
- 13) 教育・学修支援マネジメント(2)

【総括的テーマ】教育・学修支援を推進するための具体的な課題解決を企画・実践する内容(2 テーマ)

- 14) プロジェクト研究
- 15) プロジェクト実習

- ▶ 平成 28 年度に実施した試行プログラムの修了歴のある方は、本プログラムにおいて当該コースの履修が免除されます。ただし、受講料の減免はありません。

(2) 第1期生の受講コースと日程

| 対面授業日程 | 開講コース |
|--|---|
| 【平成29年度】 夏期3日間 平成29年9月11日(月)～9月13日(水) | 1) 高等教育政策と自校理解 3) 学生の抱える困難の理解と支援 5) 高等教育の国際化対応 7) 教育のICT化と教材開発支援 12) 教育・学修支援マネジメント(1) 14) プロジェクト研究 |
| 春期2日間 平成30年3月5日(月)・6日(火) | 8) 学修支援とアカデミック・アドバイジング 9) 教育方法・教育評価 12) 教育・学修支援マネジメント(1) 14) プロジェクト研究 |
| 【平成30年度】 夏期3日間 平成30年9月初旬から中旬頃(予定) | 4) コミュニケーションとカウンセリングの基礎 6) 教育IR入門:教育データの分析と活用 10) 学生・学修に対する理解 13) 教育・学修支援マネジメント(2) 15) プロジェクト実習 |
| 春期2日間 平成31年3月初旬から中旬頃(予定) | 2) カリキュラム理解 11) ラーニングコモンズの運営 13) 教育・学修支援マネジメント(2) 15) プロジェクト実習 |

(3) 担当教員一覧

| 教員名 | 所属・職名 | 専門分野 |
|-------|-----------------------|--------------------|
| 竹内比呂也 | ALC センター長、人文科学研究院・教授 | 図書館情報学 |
| 白川優治 | 国際教養学部・准教授、ALC 副センター長 | 教育社会学、教育行財政学、高等教育論 |
| 山本和貫 | ALC 副センター長・准教授 | 物性物理学 |
| 檜垣泰彦 | ALC 副センター長・准教授 | ソフトウェア工学、情報システム学 |
| 前田早苗 | 国際教養学部・教授 | 高等教育論、大学評価論 |
| 石井正人 | 人文科学研究院・教授 | 歴史言語学 |
| 織田雄一 | 高等教育研究機構・教授 | 国際教育学、高等教育政策論 |
| 岡田聡志 | 高等教育研究機構・特任准教授 | 高等教育論、教育社会学、社会調査法 |
| 國本千裕 | ALC・特任准教授 | 図書館情報学 |
| 藤本茂雄 | ALC・特任講師 | 物理学 |
| 姉川雄大 | ALC・特任講師 | 歴史学 |
| 池田光雪 | ALC・特任助教 | 情報工学 |
| 常川真央 | ALC・特任助教 | 図書館情報学 |
| 御手洗明佳 | ALC・特任助教 | 教育社会学、高等教育論 |

▶所属機関は、いずれも千葉大学

▶ALC=千葉大学アカデミック・リンク・センター

▶千葉大学所属教員以外に、コースにより外部講師を予定

(4)各コースの概要

| 「各コースの概要」の見方 | |
|--------------|---|
| キーワード | 受講生がコースの内容を概観できるように、コースで扱う主なトピックを示しています。 |
| ルーブリックとの対応 | 当該コースと「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック」との対応関係を示すものです。詳細は、「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」のパンフレット、または、ウェブサイト(http://alc.chiba-u.jp/ALPS/sd.html)のカリキュラムマップをご確認ください。 |
| 開講期 | 当該コースの開講年度・時期(夏期・春期)を示しています。 |
| コーディネータ | コース全体の運営・調整を行う担当教員を示しています。なお、各コースは、学内・学外から講師を招聘しコースの提供を行います。 |
| 目的 | 受講生が当該コースを受講する意味や意義について示しています。 |
| 到達目標 | 当該コース修了段階で、受講生ができるようになることが望ましい事柄を示しています。 |
| 修了要件 | 当該コースを修了するために受講生が満たすべき要件を示しています。 なお、eラーニングは、自宅および勤務先での受講、対面授業は、千葉大学アカデミック・リンク・センターにおいての受講となります。 |

| 1) 高等教育政策と自校理解 | |
|----------------|--|
| キーワード | 高等教育政策の動向、大学評価、内部質保証、学修成果 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(C) ③大学についての知識(C) ⑥人間関係の構築(C) |
| 開講期 | 平成 29 年度夏期(eラーニング:8月、対面授業:9月 11~13日) |
| コーディネータ | 白川優治 |
| 目的 | 高等教育政策の動向とその背景にある社会変動を理解するとともに、教育・学修支援に関係する大学評価や質保証のあり方について、所属大学の方針や各種取り組み状況を理解することで、自校の今後の教育・学修支援のあり方を考え、具体的に改善に結び付けるための基礎的能力の習得を目的とする。 |
| 到達目標 | ・高等教育政策の制度・政策の現状、大学を取り巻く環境などについての基本的な理解を身に付ける。 ・学内のさまざまな取り組み状況を他校の状況と比較しながら現状を理解し、自校の今後の教育・学修支援の現状と課題を説明することができる。 |
| 修了要件 | eラーニング 4 時間、対面授業 4 時間をすべて受講すること |

| 2) カリキュラム理解 | |
|-------------|---|
| キーワード | 大学のカリキュラム、専門分野、正課内・正課外の教育・学修 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(B) ③大学についての知識(B) ④学生への対応(C) |
| 開講期 | 平成 30 年度春期 |
| コーディネータ | 白川優治 |
| 目的 | 大学における教育課程の構造・特徴について、各専門領域の基本原則を理解するとともに、各教育領域の現状と課題を把握する。また、教養教育や専門外の各種授業科目の意味や位置について、正課内・正課外の教育の関係も含めて理解する。 |
| 到達目標 | ・大学教育における教育課程の特徴、各専門領域の教育課程の特徴について説明することができる。 ・教養教育・共通教育など、専門教育以外の教育課程について、意味や特徴を理解し、自校の状況について説明することができる。 ・正課内・正課外の教育活動の関係や特徴について理解し、そのなかでの教育・学修支援の役割を説明することができる。 |
| 修了要件 | eラーニング 4 時間、対面授業 4 時間(予定)をすべて受講すること |

| 3) 学生の抱える困難の理解と支援 | |
|-------------------|---|
| キーワード | 発達障害、身体障害、精神疾患、学生生活、社会生活 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(C) ②担当業務の内容(C) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(C) |
| 開講期 | 平成 29 年度夏期(eラーニング:8月、対面授業:9月 11~13日) |
| コーディネータ | 岡田聡志、白川優治 |
| 目的 | 学修の場面や学生生活において、学生がどのような困難を抱えているか、それにどのように対応するか、学内外の組織間連携のあり方について、知識を修得し、応用することを目的とする。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害などの学生の抱える困難の現代的課題を理解する。 ・具体的な学生への対応のあり方について理解し、所属大学内の取り組みに応用する。 |
| 修了要件 | eラーニング 4 時間、対面授業 4 時間をすべて受講すること |

| 4) コミュニケーションとカウンセリングの基礎 | |
|-------------------------|--|
| キーワード | 学生相談、コミュニケーションスキル、カウンセリング、ケア、学生生活 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(C) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(B) ⑥人間関係の構築(B) |
| 開講期 | 平成 30 年度夏期 |
| コーディネータ | 御手洗明佳 |
| 目的 | 教育・学修支援を推進する上で大切なコミュニケーション能力を涵養するとともに、カウンセリングの基礎について理解することを目的とする。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援や学修支援の担当者に必要な法令遵守の意義や倫理観を身につけている。 ・多様な学生への効果的なコミュニケーションのあり方について説明することができる。 ・チームで業務を進めるにあたり、自分の考えを伝えつつ、他者と合意形成を図り、協調的に業務を推進することができる。 ・他部局の職員等との連携を含めて、協働的する体制を構築するための働きかけを行うことができる。 |
| 修了要件 | eラーニング 4 時間、対面授業 4 時間(予定)をすべて受講すること |

| 5) 高等教育の国際化対応 | |
|---------------|--|
| キーワード | 学生の送り出し、学生の受け入れ、留学生支援、キャンパスのグローバル化 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(C) ③大学についての知識(C) ④学生への対応(B) |
| 開講期 | 平成 29 年度夏期(eラーニング:8月、対面授業:9月 11~13日) |
| コーディネータ | 御手洗明佳 |
| 目的 | 高等教育の国際化を切り口として、所属大学の方針や位置づけ、適切な学生対応について考える能力を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・所属大学の国際化政策と教育課程や授業内容のつながりについて理解している。 ・国内・海外の大学の国際化対応の現状について理解し、その上で所属大学の位置付けを把握する。 ・留学生を含む多様な学生への効果的なコミュニケーションのあり方について説明することができる。 |
| 修了要件 | eラーニング 4 時間、対面授業 4 時間をすべて受講すること |

| 6)教育 IR 入門：教育データの分析と活用 | |
|------------------------|--|
| キーワード | 基礎集計、記述統計、アンケート調査の設計、データベース |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(B) ②担当業務の内容(B) ③大学についての知識(C) |
| 開講期 | 平成 30 年度夏期 |
| コーディネータ | 岡田聡志 |
| 目的 | 教育に関するデータの収集・分析・報告・活用を通じて、学生や所属大学の実態を理解し、改善に活かすための方法や技術を修得することを目的とする。 |
| 到達目標 | ・様々なデータの特徴と基本的なデータの分析手法を理解する。 ・教育・学修支援に関するデータを分析し、その改善や設計に利用することができる。 |
| 修了要件 | e ラーニング 4 時間、対面授業 4 時間(予定)をすべて受講し、所定の課題を提出すること |

| 7)教育の ICT 化と教材開発支援 | |
|--------------------|---|
| キーワード | 教材開発、著作権、著作物、コンテンツ |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(B) ②担当業務の内容(C) ③大学についての知識(B) ⑥人間関係の構築(C) |
| 開講期 | 平成 29 年度夏期(e ラーニング:8 月、対面授業:9 月 11~13 日) |
| コーディネータ | 竹内比呂也 |
| 目的 | 高等教育における ICT(情報通信技術)の活用が進展する状況下での大学の教材開発の意義、教材開発支援のために必要となる著作権の基本や大学における教材開発や教材開発支援の実践事例について理解する。 |
| 到達目標 | ・ICTを活用した教材開発支援の意義について理解し、それを説明することができる。 ・著作物を教材として利用する際に留意すべき著作権の基本について理解し、教員など教材作成者に助言できる。 ・自分自身で比較的簡易な教材の作成ができる。 |
| 修了要件 | e ラーニング 4 時間、対面授業 4 時間をすべて受講すること |

| 8)学修支援とアカデミック・アドバイジング | |
|-----------------------|--|
| キーワード | アカデミック・アドバイジング、学習者、助言者 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(B) ③大学についての知識(C) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(C) |
| 開講期 | 平成 29 年度春期(e ラーニング:2 月、対面授業:3 月 5・6 日) |
| コーディネータ | 竹内比呂也、御手洗明佳 |
| 目的 | 学修支援とアカデミック・アドバイジングの基本的な考え方と具体的な実践の理解を通じて、個別的な学修支援やアカデミック・アドバイジングの際に留意すべき点などを理解する。 |
| 到達目標 | ・アカデミック・アドバイジングについて理解し、説明できる。 ・個々の学生に対する学修支援について理解し、その際の留意点を説明できる。 |
| 修了要件 | e ラーニング 2 時間、対面授業 6 時間をすべて受講すること |

| 9)教育方法・教育評価 | |
|-------------|--|
| キーワード | アクティブラーニング、真正の評価、評価の妥当性、信頼性 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(B) ③大学についての知識(B) ⑥人間関係の構築(C) |
| 開講期 | 平成 29 年度春期(eラーニング:2月、対面授業:3月 5・6日) |
| コーディネータ | 岡田聡志、御手洗明佳 |
| 目的 | 教育方法・教育評価の基本的な考え方と具体的な事例の理解を通じて、教育支援や学修支援との関わりや教職協働のあり方を検討し、設計・再構成することを目的とする。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育方法・教育評価の特徴とその背景について理解する。 ・具体的な教育方法・教育評価が導入される文脈や専門分野との関係性について理解する。 ・教育方法・教育評価の現代的課題を教育・学修支援の取組みと関係づける。 |
| 修了要件 | eラーニング 5 時間、対面授業 3 時間をすべて受講し、所定の課題を提出すること |

| 10)学生・学修に対する理解 | |
|----------------|--|
| キーワード | 学生生活、大学生の変化、学習行動、学修支援 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(B) ②担当業務の内容(C) ③大学についての知識(C) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(C) |
| 開講期 | 平成 30 年度夏期 |
| コーディネータ | 白川優治、岡田聡志 |
| 目的 | 大学における教育・学修支援の専門性を高めるため、学生を取り巻く状況と、学生の学習のあり方について理解する。本コースでは、学生の多様化が進む一方で、学修の質の向上が求められていることを前提に、①大学生の変化と学生を取り巻く状況の変化、②大学生の学習の状況、について学習する。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生の変化と学生を取り巻く状況の変化を理解し、学生の社会的地位やイメージについて時代の変化を説明することができる。 ・大学での学習、大学生の学習状況について、現状と課題を説明することができる。 |
| 修了要件 | eラーニング 4 時間、対面授業 4 時間(予定)をすべて受講すること |

| 11)ラーニングコモンズの運営 | |
|-----------------|---|
| キーワード | ラーニングコモンズ、大学図書館、図書館員、ピアサポート、学習空間 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(B) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(B) |
| 開講期 | 平成 30 年度春期 |
| コーディネータ | 竹内比呂也、國本千裕 |
| 目的 | アクティブラーニングを促進し、学修の質を高める効果をもたらす学習環境としてのラーニングコモンズの特長について理解するとともに、教育・学修支援との関わりやラーニングコモンズにおける教職協働などについて、具体的な事例の学習を通じて理解する。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングコモンズが教育、学習に関してどのような効果を持つかを理解し、説明できる。 ・ラーニングコモンズにおける学生向けの活動の計画立案、実施について説明できる。 |
| 修了要件 | eラーニング 4 時間、対面授業 4 時間(予定)をすべて受講すること |

| 12)教育・学修支援マネジメント(1) | |
|---------------------|---|
| キーワード | 教育支援、学修支援、学生支援、問題解決学習、グループワーク |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(C) ②担当業務の内容(C) ③大学についての知識(C) ④学生への対応(C) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(C) |
| 開講期 | 平成 29 年度夏期(対面授業:9月 11~13日)、平成 29 年度春期(対面授業:3月 5・6日) |
| コーディネータ | 竹内、白川、山本、檜垣、前田、石井、織田、岡田、國本、藤本、姉川、池田、常川、御手洗 |
| 目的 | 教育・学修支援を実践するための手法を修得することを目的としている。 |
| 到達目標 | ・教育・学修支援の専門性に必要な能力項目に関わる基本的な知識を包括的に理解している。 |
| 修了要件 | 対面授業8時間を受講し、グループワークに参加するとともに、コース修了時に実施予定の中間報告会で発表を行うこと |

| 13)教育・学修支援マネジメント(2) | |
|---------------------|---|
| キーワード | 教育支援、学修支援、学生支援、問題解決学習、グループワーク |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(B) ②担当業務の内容(B) ③大学についての知識(B) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(B) ⑥人間関係の構築(B) |
| 開講期 | 平成 30 年度夏期(対面授業:9月上旬予定)、平成 30 年度春期(対面授業:3月上旬予定) |
| コーディネータ | 竹内、白川、山本、檜垣、前田、石井、織田、岡田、國本、藤本、姉川、池田、常川、御手洗 |
| 目的 | 教育・学修支援を実践するための手法を修得することを目的としている。 |
| 到達目標 | ・教育・学修支援の専門性に必要な能力項目に関わる基本的な知識を身につけており、その知識を他者に説明することができる。 |
| 修了要件 | 対面授業8時間を受講し、グループワークに参加するとともに、コース修了時に実施予定の成果報告会で発表を行うこと |
| 特記事項 | 本コースを受講するには、「教育・学修支援マネジメント(1)」を修了していることが前提となる。 |

| 14) プロジェクト研究 | |
|--------------|---|
| キーワード | 教育支援、学修支援、学生支援、個人研究、問題解決学習 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(A) ②担当業務の内容(A) ③大学についての知識(A) ④学生への対応(A) ⑤担当業務への取り組み方(A) ⑥人間関係の構築(A) |
| 開講期 | 平成 29 年度夏期(対面授業:9月 11～13日)、平成 29 年度春期(対面授業:3月 5・6日) |
| コーディネータ | 竹内、白川、山本、檜垣、前田、石井、織田、岡田、國本、藤本、姉川、池田、常川、御手洗 |
| 目的 | 本コースでは、教育・学修支援を推進するために生じる諸問題について、個人的なテーマを設定し、クリティカルに追求し、具体的課題解決を検討、企画・実践する能力を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | ・これまでに身につけた教育・学修支援に関わる知識・スキルを実践の場の問題解決に応用することができる。 |
| 修了要件 | 対面授業 8 時間を受講し、適宜、指導担当者の研究指導を受けること。また、コース修了時に実施予定の成果報告会で発表を行うこと |

| 15) プロジェクト実習 | |
|--------------|---|
| キーワード | 教育支援、学修支援、学生支援、実践、実習 |
| ルーブリックとの対応 | ①学生・学修・教育支援の内容(A) ②担当業務の内容(A) ③大学についての知識(A) ④学生への対応(A) ⑤担当業務への取り組み方(A) ⑥人間関係の構築(A) |
| 開講期 | 平成 30 年度夏期(対面授業:9 月上旬予定)、平成 30 年度春期(対面授業:3 月上旬予定) |
| コーディネータ | 竹内、白川、山本、檜垣、前田、石井、織田、岡田、國本、藤本、姉川、池田、常川、御手洗 |
| 目的 | 本コースでは、実際の教育・学修支援に関わる現場を経験することで、自分の業務や理想的実践について振り返る機会を提供することを目的とする。 |
| 到達目標 | ・これまでに身につけた教育・学修支援に関わる知識・スキルを実践の場の問題解決に応用することができる。 |
| 修了要件 | 実習を行うこと。また、コース修了時に実施予定の成果報告会で発表を行うこと |
| 特記事項 | 本コースを受講するには、「プロジェクト研究」を修了していることが前提となる。 |